令和３年度　第３回　浜松市美術館協議会

日　時　令和３年３月１７日（木）
　　午後２時から
場　所　浜松市美術館　２階　講座室

次　　第

１　開　会

２　浜松市美術館協議会会長あいさつ

３　浜松市市民部文化振興担当部長あいさつ

４　議　題
（１）令和４年度浜松市美術館事業計画について
（２）令和４年度浜松市秋野不矩美術館事業計画について
（３）令和３年度寄贈作品等について
（４）その他

５　閉　会

（１）令和４年度浜松市美術館事業計画について

（単位：千円）

事業・事項		令和４年度	令和３年度	比較
総務費	目：美術館費	214,159	157,584	56,575
	１人件費	47,584	65,783	△ 18,199
	(1) 附属機関の委員等	123	123	0
	(2) 会計年度任用職員	7,722	7,550	172
	(3) 職員	39,739	58,110	△ 18,371
	２美術館運営事業	32,736	29,763	2,973
	(1) 維持管理事業	25,921	25,928	△ 7
	浜松市美術館の管理運営に要する経費			
	(2) 資料収集保存事業	6,815	3,835	2,980
	美術資料の収集、保存、修繕、管理に要する経費			
	３美術館展覧会開催事業	53,294	57,839	△ 4,545
	(1) 平常展開催事業	3,527	4,301	△ 774
	館蔵作品の展覧会、浜松市「市展」の開催に要する経費			
	(2) 企画展開催事業	49,767	26,009	23,758
	所蔵品以外での企画展覧会の開催に要する経費 ・遠藤美香展 ・アルプスの少女ハイジ展 ・刀展			
	(3) 特別展開催事業	0	27,529	△ 27,529
	４ （新規）秋野不矩美術館管理運営事業	77,774	0	77,774
	秋野不矩美術館の管理運営に要する経費 ・指定管理 指定管理者　公益財団法人浜松市文化振興財団 指定管理期間　令和4年4月1日から令和7年3月31日まで（3年） 目の組替（R3:秋野不矩美術館費　66,696千円）			
	４美術館資料購入基金積立金	836	1,434	△ 598
	美術館資料購入に充てるための、浜松市美術館資料購入基金に対する積立金			
	５ （新規）美術館デジタル運営経費	1,180	1,833	△ 653
	美術館のデジタル関連事業に要する経費			
	６美術館運営経費	755	932	△ 177
	美術館の一般事務に要する経費			

令和４年度　浜松市美術館企画展一覧

【企画展】

展覧会名称	「遠藤美香展」
展覧会会期	令和４年４月22日（金）～6月19日（日）　51日　　※目標5,000人

遠藤美香の版画は一見すると、ペンで描かれたのではないかと疑ってしまうほどの細密な木版画作品です。特に作品の制作においても遠藤らしさが表れており、版木はホームセンターにある 182 cm×91 cm版のベニヤ板を使っています。ベニヤ板一枚だけでも大きさを感じるが、それらを数枚活用した大作も多くみられます。当然ながら制作は版木の上に乗り、彫刻等によりコツコツと丹念に掘り進んでいきます。フェイス展で大賞受賞作品は、約半年かけて彫り上げた作品ということです。静岡県は、版画については古くから盛んな地域であり、遠藤美香の作品にも通じるものが感じられます。繊細な表現より感じられる強いテーマ性は大変興味を惹かれるところです。表現された作品はもとより、保存されている版木も合わせて展示することから、新人遠藤美香の魅力を紹介します。

展覧会名称	ハイジ展　　【共催】Daiichi-TV
展覧会会期	令和４年７月９日（土）～9月11日（日）　62日　　※目標30,000人

1974 年にフジテレビ系列で放送されたテレビアニメ『アルプスの少女ハイジ』。幼くして両親を亡くしたハイジが、社会や大人たちの事情に翻弄されながらも、アルムの山のおじいさん、ヤギ飼いの少年ペーター、フランクフルトの富豪・ゼーゼマン家の足が不自由な少女クララ等の登場人物との出会いを通して、力強く生きる姿が描かれます。このアニメは、高畑勲、宮崎駿、小田部羊一ら、超一流のスタッフによって制作されました。現地での本格的なロケハンをもとに制作された日本初のアニメ作品で、50年近く経つ現在でも多くの人々の心を捉え続けています。

このアニメの原作は、スイス人作家ヨハンナ・シュピーリが1880年にドイツで出版した『ハイジの修業時代と遍歴時代』、翌年の続編『ハイジは習ったことを役立てる』です。この小説は約70の言語に翻訳され、派生作品や映像化作品も含めると無数の「ハイジ」イメージが世界中に拡散しています。日本では、1920年(大正９年)の野上彌生子による初訳以降、驚くほど多くの訳本が出版されてきました。特に、少女雑誌というメディアを中心に視覚化された日本独特の「かわいい」ハイジ像が、アニメ『アルプスの少女ハイジ』の誕生へとつながりました。

本展では、まず、激動の時代背景も含めて原作者シュピーリの生涯を紹介し、直筆原稿やイラスト原画等を展示します。次に、世界各国の『ハイジ』翻訳や映画を概観し、日本での受容と比較します。最後に、アニメ『アルプスの少女ハイジ』の制作者による企画や原作の解釈、映像化のための工夫等を、当時の写真や制作資料（セル画、レイアウト等）をもとに紹介し、アニメーション作りの仕組みをひもときます。

展覧会名称	刀展　　【共催】中日新聞、テレビ静岡
展覧会会期	令和4年10月15日（土）～12月4日（日）　44日　　※目標20,000人

1570（元亀元）～1586（天正14）年の17年間、徳川家康は浜松の地に居城を構えました。この間多くの戦いに挑みながら天下統一への道を歩んでいきます。1572（元亀3）年に、織田信長の援軍とともに上洛する武田信玄を三方ヶ原に迎え撃ちましたが、大敗を喫しました。三方ヵ原の戦いは、その後の三河・遠江・駿河・甲斐・南信濃を有する大名に出世するきっかけとなった戦いだったとも言われています。

浜松市美術館は浜松城と隣接しているため、徳川家ゆかりの刀剣・武具並びに江戸文化の美術工芸品を紹介する展覧会を望む声が多く寄せられています。

そこで、本展覧会では、2022（令和4）年の「三方ヶ原の合戦」450年を記念し、戦乱を越えて泰平の世を成した武士の魂とも言える刀剣と、江戸の文化を築いた文人や町人たちの絵画や工芸品を紹介致します。

2022年度（R4） 浜松市美術館　展覧会開催スケジュール

4 月

日	曜	休	企	公	展
1	金	・	企		企画展①遠藤美香展+新収蔵品展（館蔵品）（51日間）
2	土	・	企		
3	日	・	企		
4	月	休	企		
5	火	・	企		
6	水	・	企		
7	木	・	企		
8	金	・	企		
9	土	・	企		
10	日	・	企		
11	月	休	企		
12	火	・	企		
13	水	・	企		
14	木	・	企		
15	金	・	企		
16	土	・	企		
17	日	・	企		
18	月	休	企		
19	火	・	企		
20	水	・	企		
21	木	・	企		
22	金	企	企		
23	土	企	企		
24	日	企	企		
25	月	休	企		
26	火	企	企		
27	水	企	企		
28	木	企	企		
29	金	企	企		
30	土	企	企		

5 月

日	曜	休	企	公	展
1	日	企	企		企画展①遠藤美香展+新収蔵品展（館蔵品）（51日間）
2	月	休	企		
3	火	企	企		
4	水	企	企		
5	木	企	企		
6	金	企	企		
7	土	企	企		
8	日	企	企		
9	月	休	企		
10	火	企	企		
11	水	企	企		
12	木	企	企		
13	金	企	企		
14	土	企	企		
15	日	休	企		
16	月	企	企		
17	火	企	企		
18	水	企	企		
19	木	企	企		
20	金	企	企		
21	土	企	企		
22	日	企	企		
23	月	休	企		
24	火	企	企		
25	水	企	企		
26	木	企	企		
27	金	企	企		
28	土	企	企		
29	日	休	企		
30	月	企	企		
31	火	企	企		

6 月

日	曜	休	企	公	展
1	水	企	企		企画展①遠藤美香展+新収蔵品展（館蔵品）（51日間）
2	木	企	企		
3	金	企	企		
4	土	企	企		
5	日	企	企		
6	月	休	企		
7	火	企	企		
8	水	企	企		
9	木	企	企		
10	金	企	企		
11	土	企	企		
12	日	企	企		
13	月	休	企		
14	火	企	企		
15	水	企	企		
16	木	企	企		
17	金	企	企		
18	土	企	企		
19	日	企	企		
20	月	休	企		
21	火	・	企		
22	水	・	企		
23	木	・	企		
24	金	・	企		
25	土	・	企		
26	日	・	企		
27	月	休	企		
28	火	・	企		
29	水	・	企		
30	木	・	企		

7 月

日	曜	休	企	公	展
1	金	・	企		企画展①遠藤美香展+新収蔵品展（館蔵品）（51日間）
2	土	・	企		
3	日	・	企		
4	月	休	企		
5	火	・	企		
6	水	・	企		
7	木	・	企		
8	金	・	企		
9	土	・	企		
10	日	・	企		
11	月	休	企		
12	火	・	企		
13	水	・	企		
14	木	・	企		
15	金	・	企		
16	土	・	企		
17	日	・	企		
18	月	休	企		
19	火	・	企		
20	水	・	企		
21	木	・	企		
22	金	・	企		
23	土	・	企		
24	日	・	企		
25	月	休	企		
26	火	・	企		
27	水	・	企		
28	木	・	企		
29	金	・	企		
30	土	・	企		
31	日	・	企		

8 月

日	曜	休	企	公	展
1	月	企	企		企画展②「ハイジ展」（61日間）
2	火	企	企		
3	水	企	企		
4	木	企	企		
5	金	企	企		
6	土	企	企		
7	日	企	企		
8	月	休	企		
9	火	企	企		
10	水	企	企		
11	木	企	企		
12	金	企	企		
13	土	企	企		
14	日	休	企		
15	月	企	企		
16	火	企	企		
17	水	企	企		
18	木	企	企		
19	金	企	企		
20	土	企	企		
21	日	企	企		
22	月	休	企		
23	火	企	企		
24	水	企	企		
25	木	企	企		
26	金	企	企		
27	土	企	企		
28	日	休	企		
29	月	企	企		
30	火	企	企		
31	水	企	企		

9 月

日	曜	休	企	公	展
1	木	企	企		企画展②「ハイジ展」（61日間）
2	金	企	企		
3	土	企	企		
4	日	企	企		
5	月	休	企		
6	火	企	企		
7	水	企	企		
8	木	企	企		
9	金	企	企		
10	土	企	企		
11	日	休	企		
12	月	休	企		
13	火	・	企		
14	水	・	企		
15	木	・	企		
16	金	・	企		
17	土	・	企		
18	日	・	企		
19	月	休	企		
20	火	・	企		
21	水	・	企		
22	木	・	企		
23	金	・	企		
24	土	・	企		
25	日	・	企		
26	月	休	企		
27	火	・	企		
28	水	・	企		
29	木	・	企		
30	金	・	企		

10 月

日	曜	休	企	公	展
1	土	・	企		企画展③「刀剣展（仮称）」（44日間）
2	日	・	企		
3	月	休	企		
4	火	・	企		
5	水	・	企		
6	木	・	企		
7	金	・	企		
8	土	・	企		
9	日	・	企		
10	月	休	企		
11	火	・	企		
12	水	・	企		
13	木	・	企		
14	金	・	企		
15	土	・	企		
16	日	・	企		
17	月	休	企		
18	火	・	企		
19	水	・	企		
20	木	・	企		
21	金	・	企		
22	土	・	企		
23	日	・	企		
24	月	休	企		
25	火	・	企		
26	水	・	企		
27	木	・	企		
28	金	・	企		
29	土	・	企		
30	日	・	企		
31	月	休	企		

11 月

日	曜	休	企	公	展
1	火	休	企		企画展③「刀剣展（仮称）」（44日間）
2	水	企	企		
3	木	企	企		
4	金	企	企		
5	土	企	企		
6	日	企	企		
7	月	休	企		
8	火	企	企		
9	水	企	企		
10	木	企	企		
11	金	企	企		
12	土	企	企		
13	日	休	企		
14	月	企	企		
15	火	企	企		
16	水	企	企		
17	木	企	企		
18	金	企	企		
19	土	企	企		
20	日	企	企		
21	月	休	企		
22	火	企	企		
23	水	企	企		
24	木	企	企		
25	金	企	企		
26	土	企	企		
27	日	休	企		
28	月	企	企		
29	火	企	企		
30	水	企	企		

12 月

日	曜	休	企	公	展
1	木	企	企		企画展③「刀剣展（仮称）」（44日間）
2	金	企	企		
3	土	企	企		
4	日	企	企		
5	月	休	企		
6	火	・	企		
7	水	・	企		
8	木	・	企		
9	金	・	企		
10	土	・	企		
11	日	・	企		
12	月	休	企		
13	火	・	企		
14	水	・	企		
15	木	・	企		
16	金	・	企		
17	土	・	企		
18	日	・	企		
19	月	休	企		
20	火	・	企		
21	水	・	企		
22	木	・	企		
23	金	・	企		
24	土	・	企		
25	日	・	企		
26	月	休	企		
27	火	・	企		
28	水	・	企		
29	木	・	企		
30	金	・	企		
31	土	・	企		

1 月

日	曜	休	企	公	展
1	日	・		公	「浜松市こどもの市展」12日間
2	月	休		公	
3	火	・		公	
4	水	・		公	
5	木	公		公	
6	金	公		公	
7	土	公		公	
8	日	公		公	
9	月	公		公	
10	火	休		公	
11	水	公		公	
12	木	休		公	
13	金	休		公	
14	土	公		公	
15	日	公		公	
16	月	休		公	
17	火	公		公	
18	水	公		公	
19	木	公		公	
20	金	公		公	
21	土	・		公	
22	日	・		公	
23	月	休		公	
24	火	・		公	
25	水	・		公	
26	木	・		公	
27	金	・		公	
28	土	・		公	
29	日	・		公	
30	月	休		公	
31	火	・		公	

2月

日	曜	休	企	公	展
1	水	・		公	公募展「市展第70回市展」26日間
2	木	・		公	
3	金	・		公	
4	土	・		公	
5	日	・		公	
6	月	休		公	
7	火	・		公	
8	水	・		公	
9	木	・		公	
10	金	・		公	
11	土	・		公	
12	日	・		公	
13	月	休		公	
14	火	休		公	
15	水	公		公	
16	木	公		公	
17	金	公		公	
18	土	公		公	
19	日	公		公	
20	月	休		公	
21	火	公		公	
22	水	公		公	
23	木	公		公	
24	金	公		公	
25	土	公		公	
26	日	公		公	
27	月	休		公	
28	火	公		公	

3 月

日	曜	休	企	公	展
1	水	公		公	公募展「市展第70回市展」26日間
2	木	公		公	
3	金	公		公	
4	土	公		公	
5	日	公		公	
6	月	休		公	
7	火	公		公	
8	水	公		公	
9	木	公		公	
10	金	公		公	
11	土	公		公	
12	日	公		公	
13	月	休		公	
14	火	公		公	
15	水	公		公	
16	木	・		公	
17	金	・		公	
18	土	・		公	
19	日	・		公	
20	月	休		公	
21	火	・		公	
22	水	・		公	
23	木	・		公	
24	金	・		公	
25	土	・		公	
26	日	・		公	
27	月	休		公	
28	火	・		公	
29	水	・		公	
30	木	・		公	
31	金	・		公	

令和４年度　浜松市秋野不矩美術館・特別展開催一覧

展覧会名称	「インドに魅せられた画家－秋野不矩と西田俊英展」 【共催】静岡新聞社・静岡放送（予定）
展覧会会期	令和 4 年 7 月 16 日（土）～ 8 月 21 日（日）　開館 32 日間　※目標：5,000 人

秋野不矩（1908-2001）は、1962 年インドの大学で日本画を指導する教員として 1 年間赴任したことをきっかけに、その後ライフワークとして訪問を繰り返し、風景や人々や動物などを描き続けました。初めての訪問は秋野が 54 歳のときで、2001 年、93 歳で没するまで十数回に渡り訪れました。インドとの出会いは、秋野の制作に多彩さをもたらし、雄大な風景、慎ましい庶民の暮らしや動物などさまざまなモチーフを独特な色彩で描き出し、人気を呼びました。

西田俊英（1953 年～）は、武蔵野美術大学日本画科に在学中から、再興美術院展に初入選。以後様々な賞を受賞するなど現在活躍の作家です。1993 年文化庁の新進芸術家海外研修員としてインドに一年間留学、インドの風土に大きな影響を受けました。その後も訪問を繰り返し、人物・動物・風景を精緻に描いた作品は、どれも神秘的で聖なる雰囲気を湛えています。

本展では、インドに魅せられた二人の日本画家の作品を対峙させ響きあうように展覧することで、その視点や対象のとらえ方、描き方を対比しながらご紹介します。

展覧会名称	「日本画で綴る『源氏物語五十四帖』展」 【共催】中日新聞東海本社（予定）
展覧会会期	令和 4 年 10 月 8 日（土）～11 月 27 日（日）　開館 44 日間　※目標：7,000 人

「源氏物語」は、主人公 光源氏の一生とその一族たちのさまざまな人生を扱いながら、王朝文化最盛期の貴族たちの世界を優艶に描いた、日本が誇る世界的な大文学です。

この素晴らしい原典を絵画化することは、「源氏物語絵巻」にはじまり各時代の名匠たちによっても描かれ、古来よりわが国の美的インスピレーションの豊かな源泉となりました。

本展はこの「源氏物語」を第一帖「桐壺」から第五十四帖「夢浮橋」までタイトルごとに、京都で活躍する現代の日本画家によって制作されたものです。作者ごとに見られるさまざまな手法や作風は、脈々と受け継がれてきた京都画壇の現状から見られ、また題材を「源氏物語」にもとめることによって、それぞれの作家の普段見られることの無い、全く別の世界が描き出されています。

「源氏物語」の舞台となった京都で、遠く王朝浪漫に思いを馳せながら、二百有余年に渡り受け継がれてきた芸術をもって描き出された「源氏五十四帖」の情緒あふれる雅な世界をお楽しみいただきます。

展覧会名称	「中村正義展」 【共催】静岡新聞社・静岡放送（予定）
展覧会会期	令和 5 年 1 月 28 日（土）～3 月 19 日（日）　開館 44 日間　※目標：7,000 人

中村正義（1924-1977）は愛知県豊橋市に生まれ、1946（昭和 21）年に中村岳陵に師事して蒼野社に入門しました。同年には《斜陽》が第 2 回日本美術展覧会（日展）に、翌年には《清粧》が第 32 回日本美術院展覧会（院展）に入選を果たし、早くから頭角を現しました。また一采社の同人として、大山忠昨や高山辰雄、野島青茲たちと研鑽を積み、画業を深めていきます。1960（昭和 35）年に 36 歳で日展の審査員に選ばれ画壇での地位を築きましたが、翌年に中村岳陵と袂を分かち日展からも脱退しました。

以後、代表作品《顔》や《舞妓》など、日本画の枠を超え、人間の精神性を表現した作品の数々を生み出しました。長く病と闘いながらも、惜しくも 52 歳の若さで逝去した中村正義の画業を紹介いたします。

令和4年度　秋野不矩美術館　展示スケジュール

月	日	曜	開	監	S	1階	2階
4月	1	金	×			臨時休館	
	2	土	×				
	3	日	×				
	4	月	×				
	5	火	×				
	6	水	×				
	7	木	×				
	8	金	×				
	9	土	×				
	10	日	×				
	11	月	×			休館日	
	12	火	○	4		第1回所蔵品展（令和3年度第5回所蔵品展）「ゼロの起源を求めて　ゼロ発祥の地インド～新たなる世界へ～」（3月4日（金））4月12日（火）～5月8日（日）　25 日間　124 監視　20 駐車場	
	13	水	○	4			
	14	木	○	4			
	15	金	○	4			
	16	土	○	5			
	17	日	○	5			
	18	月	×				
	19	火	○	4			
	20	水	○	4			
	21	木	○	4			
	22	金	○	4			
	23	土	○	5			
	24	日	○	5			
	25	月	×				
	26	火	○	4			
	27	水	○	4			
	28	木	○	4			
	29	金	○	6	2		
	30	土	○	6	2		
5月	1	日	○	6	2		
	2	月	○	6	2		
	3	火	○	6	2		
	4	水	○	6	2		
	5	木	○	6	2		
	6	金	○	6	2		
	7	土	○	6	2		
	8	日	○	6	2		
	9	月	×				
	10	火	×				
	11	水	×				
	12	木	×				
	13	金	×				
	14	土	○	5			
	15	日	○	5			
	16	月	×				
	17	火	○	4			
	18	水	○	4			
	19	木	○	4			
	20	金	○	4			
	21	土	○	5			
	22	日	○	5			
	23	月	×				
	24	火	○	4			
	25	水	○	4			
	26	木	○	4			
	27	金	○	4			
	28	土	○	5			
	29	日	○	5			
	30	月	×				
	31	火	○	4			

月	日	曜	開	監	S	1階	2階
6月	1	水	○	4		第2回所蔵品展　5月14日（土）～6月26日（日）　38 日間　166 監視　0 駐車場	市民ギャラリー⑥
	2	木	○	4			
	3	金	○	4			
	4	土	○	5			
	5	日	○	5			
	6	月					
	7	火	○	4			準備
	8	水	○	4			市民ギャラリー⑦
	9	木	○	4			
	10	金	○	4			
	11	土	○	5			
	12	日	○	5			
	13	月	×				
	14	火	○	4			準備
	15	水	○	4			市民ギャラリー⑧
	16	木	○	4			
	17	金	○	4			
	18	土	○	5			
	19	日	○	5			
	20	月	×				
	21	火	○	4			準備
	22	水	○	4			市民ギャラリー⑨
	23	木	○	4			
	24	金	○	4			
	25	土	○	5			
	26	日	○	5			
	27	月	×				撤収
	28	火	×				くん蒸
	29	水	×				
	30	木	×				
7月	1	金	×				
	2	土	×				
	3	日	×				
	4	月	×				
	5	火	×				
	6	水	×				
	7	木	×				
	8	金	×				
	9	土	×				
	10	日	×				
	11	月	×				
	12	火	×				
	13	水	×				
	14	木	×				
	15	金	×	5			展示替え
	16	土	○	7			
	17	日	○	7	2		
	18	月	○	7	2		
	19	火	×				
	20	水	○	6			
	21	木	○	6			
	22	金	○	6			
	23	土	○	7			
	24	日	○	7	2		開会式
	25	月	×				特別展　インドに魅せられた画家　秋野不矩と西田俊英展　7月16日（土）～8月21日（日）
	26	火	○	6			
	27	水	○	6			
	28	木	○	6			
	29	金	○	7			
	30	土	○	7	2		
	31	日	○				

① 7月1日（木）市制記念日は、無料開放する。 今年はくん蒸のためなし。　WS？

月	日	曜	開	監	S	1階	2階
8月	1	月	×			特別展　インドに魅せられた画家　秋野不矩と西田俊英展　7月16日（土）～8月21日（日）　32 日間　214 監視　24 駐車場	
	2	火	○	6			
	3	水	○	6			
	4	木	○	6			
	5	金	○	6			
	6	土	○	7			
	7	日	○	7	2		
	8	月	×				
	9	火	○	7	2		
	10	水	○	7	2		
	11	木	○	7	2		
	12	金	○	7	2		
	13	土	○	7	2		
	14	日	○	7	2		
	15	月	×				
	16	火	○	6			
	17	水	○	6			
	18	木	○	6			
	19	金	○	6			
	20	土	○	7			
	21	日	○	7	2		
	22	月	×				
	23	火	×				
	24	水	×				
	25	木	×				
	26	金	×				
	27	土	×				
	28	日	×				
	29	月	×				
	30	火	×				
	31	水	×				
9月	1	木	×			第3回所蔵品展「秋野不矩　生命の輝き　～さまざまな（様々な）～」　9月2日（金）～9月25日（日）　21 日間　93 監視　0 駐車場	
	2	金	○	4			
	3	土	○	5			
	4	日	○	5			
	5	月	×				
	6	火	○	4			準備
	7	水	○	4			孔雀会展
	8	木	○	4			
	9	金	○	4			
	10	土	○	5			
	11	日	○	5			
	12	月	×				
	13	火	○	4			準備
	14	水	○	4			現代作家美術展
	15	木	○	4			
	16	金	○	4			
	17	土	○	4			
	18	日	○	5			
	19	月	○	5			
	20	火	×				
	21	水	○	4			準備
	22	木	○	4			天竜デッサンクラブ展
	23	金	○	5			
	24	土	○	5			
	25	日	○	5			
	26	月	×				展示替え
	27	火	×				
	28	水	×				
	29	木	×				
	30	金	×				

8月21日（日）県民の日無料開放（特別展のためなし）

月	日	曜	開	監	S	1階	2階
10月	1	土	×			展示替え	
	2	日	×				
	3	月	×				
	4	火	×				
	5	水	×				
	6	木	×				
	7	金	×	5			
	8	土	○	7			
	9	日	○	7	2		
	10	月	○	7	2		
	11	火	×				
	12	水	○	6			
	13	木	○	6			
	14	金	○	6			
	15	土	○	7			
	16	日	○	7	2		
	17	月	×				
	18	火	○	6			
	19	水	○	6			
	20	木	○	6			
	21	金	○	6			
	22	土	○	7			
	23	日	○	7	2		
	24	月	×				
	25	火	○	6			
	26	水	○	6			
	27	木	○	6			
	28	金	○	6			
	29	土	○	7			
	30	日	○	7	2		
	31	月	×				
11月	1	火	○	6			
	2	水	○	6			
	3	木	○	7	2		開会式
	4	金	○	6			特別展　源氏物語五十四帖展　10月8日（土）～11月27日（日）　44 日間　288 監視　20 駐車場
	5	土	○	7			
	6	日	○	7			
	7	月	×				
	8	火	○	6			
	9	水	○	6			
	10	木	○	6			
	11	金	○	6			
	12	土	○	7			
	13	日	○	7	2		
	14	月	×				
	15	火	○	6			
	16	水	○	6			
	17	木	○	6			
	18	金	○	6			
	19	土	○	7			
	20	日	○	7	2		
	21	月	×				
	22	火	○	6			
	23	水	○	7			
	24	木	○	6			
	25	金	○	6			
	26	土	○	7			
	27	日	○	7	2		
	28	月	×				
	29	火	×				
	30	水	×				

③ 11月3日（水）文化の日は無料開放する。今年は特別展のためなし。

月	日	曜	開	監	S	1階	2階
12月	1	木	×			展示替え	
	2	金	×				
	3	土	×				
	4	日	×				
	5	月	×				
	6	火	×				
	7	水	×				
	8	木	×				
	9	金	×				
	10	土	○	5		第4回所蔵品展「秋野不矩　生命の輝き　～みずみずしい（瑞々しい）～」　12月10日（土）～1月15日（日）	
	11	日	○	5			
	12	月	×				
	13	火	○	4			
	14	水	○	4			
	15	木	○	4			
	16	金	○	4			
	17	土	○	5			準備
	18	日	○	5			市民ギャラリー⑬
	19	月	×				
	20	火	○	4			準備
	21	水	○	4			市民ギャラリー⑭
	22	木	○	4			
	23	金	○	4			
	24	土	○	5			
	25	日	○	5			
	26	月	×				
	27	火	○	4			
	28	水	○	4			
	29	木	×				年末年始休業
	30	金	×				
	31	土	×				
1月	1	日	×				
	2	月	×				
	3	火	×				
	4	水	○	4		第4回所蔵品展　12月10日（土）～1月15日（日）　27 日間　119 監視　0 駐車場	
	5	木	○	4			
	6	金	○	4			
	7	土	○	5			
	8	日	○	5			
	9	月	○	5			
	10	火	×				
	11	水	○	4			準備
	12	木	○	4			市民ギャラリー⑮
	13	金	○	4			
	14	土	○	5			
	15	日	○	5			
	16	月	×				展示替え
	17	火	×				
	18	水	×				
	19	木	×				
	20	金	×				
	21	土	×				
	22	日	×				
	23	月	×				
	24	火	×				
	25	水	×				
	26	木	×				
	27	金	×	5			開会式
	28	土	○	7	2		特別展　中村正義展
	29	日	○	7			
	30	月	×				
	31	火	○	6			

月	日	曜	開	監	S	1階	2階
2月	1	水	○	6		特別展　中村正義展　1月28日（土）～3月19日（日）　44 日間　286 監視　18 駐車場	
	2	木	○	6			
	3	金	○	6			
	4	土	○	7			
	5	日	○	7	2		
	6	月	×				
	7	火	○	6			
	8	水	○	6			
	9	木	○	6			
	10	金	○	6			
	11	土	○	7			
	12	日	○	7	2		
	13	月	×				
	14	火	○	6			
	15	水	○	6			
	16	木	○	6			
	17	金	○	6			
	18	土	○	7			
	19	日	○	7	2		
	20	月	×				
	21	火	○	6			
	22	水	○	6			
	23	木	○	7	2		
	24	金	○	6			
	25	土	○	7			
	26	日	○	7	2		
	27	月	×				
	28	火	○	6			
3月	1	水	○	6			
	2	木	○	6			
	3	金	○	6			
	4	土	○	7			
	5	日	○	7	2		
	6	月	×				
	7	火	○	6			
	8	水	○	6			
	9	木	○	6			
	10	金	○	6			
	11	土	○	7			
	12	日	○	7	2		
	13	月	×				
	14	火	○	6			
	15	水	○	6			
	16	木	○	6			
	17	金	○	6			
	18	土	○	7			
	19	日	○	7			
	20	月	×				
	21	火	×				展示替え
	22	水	×				
	23	木	×				
	24	金	×				
	25	土	○	5		第5回所蔵品展　6 日間　26 監視　0 駐車場	
	26	日	○	5			
	27	月	×				
	28	火	○	4			準備
	29	水	○	4			市民ギャラリー⑯
	30	木	○	4			
	31	金	○	4			

佐々木松次郎　新収蔵作品一覧(寄贈)

no.	作　品　名	年代	縦（ｃｍ）	横（ｃｍ）	技法	素材・材質
1	幼きマリア	1935 （昭和10年頃）	45.5	38	油彩画	板、油絵具
2	カナの婚礼	1969 （昭和44年）	80	91.5	油彩画	キャンバス・油彩
3	聖母子	1956 （昭和31年）	38	32	油彩画	キャンバス・油彩
4	最後の晩餐	1962 （昭和37年）	50.5	60.5	油彩画	キャンバス・油彩
5	聖女モニカと 聖アウグスチヌス	1937 （昭和12年）	38	45.5	油彩画	キャンバス・油彩
6	聖家族エジプトにのがれり	1960 （昭和35年）	45.5	53	油彩画	キャンバス・油彩
7	茨城ルドビコ	1968 （昭和43年）	60.5	45.5	油彩画	キャンバス・油彩
8	受胎告知	1967 （昭和42年）	80 ×２枚	45.5 ×２枚	油彩画	キャンバス・油彩
9	受胎告知	1970 （昭和45年）	78.5 ×２枚	45 ×２枚	油彩画	キャンバス・油彩
10	聖母子の睦み	1939頃 （昭和14年頃）	60.5	72.7	油彩画	キャンバス・油彩
11	磔刑のキリストとマリア	1958 （昭和25年）	60.5	45.7	油彩画	キャンバス・油彩

12	マリア観音と セミナリオ	1965 （昭和40年）	45.5	60.5	油彩画	キャンバス・油彩
13	マリア観音	1935 （昭和10年）	73	36.5	泥絵	紙本・泥絵
14	聖母のエリザ ベト訪問	1963 （昭和38年）	60.5	45.5	油彩画	キャンバス・油彩
15	踏み絵の聖母	1955 （昭和30年）	60.5	45.5	油彩画	キャンバス・油彩
16	くすしきばら の聖母	1960 （昭和35年）	45.5	38	油彩画	ボード・油絵
17	エマオでの 食事	1972 （昭和47年）	45.5	38	油彩画	ボード・油絵
18	夜のトラピス ト	大正時代	20	15	油彩画	キャンバス・油彩
19	都田川	不明	57	93.5	油彩画	キャンバス・油彩
20	寝殿の聖母子	1935 （昭和10年）	50	60.5	油彩画	キャンバス・油彩
21	ロザリオの 聖母	1950年代	60.5	45.5	油彩画	キャンバス・油彩
22	サンタマリア 像	1972 （昭和47年）	53	41	油彩画	キャンバス・油彩
23	長崎佐世保の デッサン	不明	45	56.5	鉛筆画	鉛筆、紙

24	聖母子	1956年 （昭和45年）	65.5	45.5	油彩画	キャンバス・油彩
25	聖母子	1954年 （昭和29年）	61	45.5	油彩画	キャンバス・油彩
26	御言葉は人と成り給えり	1958年 （昭和33年）	91	45.5	油彩画	キャンバス・油彩

柳澤 紀子　新収蔵作品一覧(寄贈)

No.	作　品　名	年代	縦（ｃｍ）	横（ｃｍ）	技法	素材・材質
1	聖	1964 （昭和39年）	54	35.7	版画	紙本版画
2	Piece　Ⅱ	1986 （昭和61年）	32	16	版画	紙本版画
3	Earths Surface　Ⅴ	1988 （昭和63年）	29.5	45	版画	紙本版画
4	wind	1988 （昭和63年）	29.5	29.5	版画	紙本版画
5	翔　Ⅲ	1988 （昭和63年）	15	24.5	版画	紙本版画
6	雑草	1990 （平成2年）	28.5	29	版画	紙本版画
7	西臼塚から	1991 （平成3年）	22.5	34.5	版画	紙本版画
8	夏草　Ⅱ	1991 （平成3年）	22.5	29.5	版画	紙本版画

9	Paradais　Ⅰ	1992 （平成4年）	44.5	45	版画	紙本版画
10	NAVAJO　Ⅲ	1994 （平成6年）	34	45	版画	紙本版画
11	何処へ　Ⅰ	1995 （平成7年）	32	57	版画	紙本版画
12	OKADA　Ⅱ	1997 （平成9年）	45	29	版画	紙本版画
13	Luminous'05	2006 （平成18年）	24.5	14	版画	紙本版画
14	変容　Ⅰ	2019 （平成31年）	19.5	14.8	版画	紙本版画
15	変容　Ⅱ	2019 （平成2年）	19.6	14.8	版画	紙本版画
16	原風景への旅　Ⅰ	1980 （昭和55年）	50	33.5	版画	紙本版画
17	原風景への旅　Ⅱ	1980 （昭和55年）	50	33.5	版画	紙本版画

加藤金一郎　新収蔵作品一覧（寄贈）

No.	作　品　名	年代	縦（ｃｍ）	横（ｃｍ）	技法	素材・材質
1	樹の下で＜北海道豊頃にて＞	1987 （昭和62年）	38	45	水彩画	水彩・紙

秋野不矩　新収蔵作品一覧(購入)

No.	作　品　名	年代	縦（ｃｍ）	横（ｃｍ）	技法	素材・材質
1	暮れる海	1960 (昭和35年)	62.7	150.7	日本画	紙本着色

令和３年度の寄贈作品について

〇令和３年度：３件　45 点の作品の寄贈を受けいれた。

１.令和３年度寄贈審査作品

種類	作家名	点数	寄贈者
水彩画	加藤　金一郎	1	奥様の友人
洋画	佐々木　松次郎	27	ご子息
版画	柳澤　紀子	17	作者の知人

※　美術資料の収集は次の各号に掲げる基準に基づいておこなう。

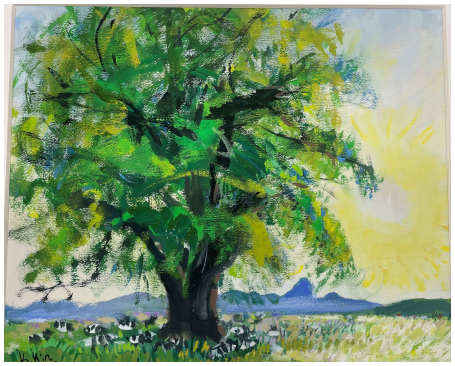
（１）　近現代美術の流れを展望できる優れた作品

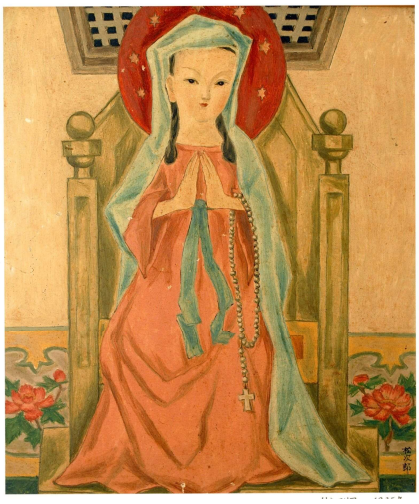
（２）　郷土に関係のある優れた作品

（３）　秋野不矩に関する作品及び資料

（４）　前各号に掲げるもののほか館資料として適したもの

2.寄贈の経緯と収蔵に関する現在の考え方

作家名		寄贈の経緯	収蔵に関する現在の考え方
浜松市美術館	加藤金一郎 ※前各号に掲げるもののほか館資料として適したもの	以前浜松にお住まいで当館に寄贈予定の作品のガラス絵があることを思い出し寄贈をご希望された。寄贈者の母が丹羽和子(金一郎の妻)と同級生ということで丹羽和子の知人がギャラリーを開いた際に、購入したものである。その後、当館に収蔵されているガラス絵が自分の収蔵する作品と似ていたことから寄贈したいと持ち込まれた作品である。  《樹の下で》1987 年	加藤金一郎のガラス絵は 7 点収蔵している。(関連資料 12 点) 大正 10(1921)年 10 月 21 日名古屋市に生まれる。 この作品は、当館に収蔵される前 12 枚で構成されたガラス絵の制作過程を開設する作品の原画作品である。 新制作協会会員の洋画家加藤金一郎は 8 月 24 日午後 10 時 23 分、心不全のため名古屋市昭和区の病院で死去した。享年 75。昭和 10(1935)年尋常小学校を卒業し、同 15 年頃、鬼頭鍋三郎に師事して緑ケ岡洋画研究所に通う。ガラス絵も描き、同 52 年日本ガラス絵協会会員に推挙されている。

	佐々木松次郎 ※郷土に関係のある優れた作品	令和2年12月、佐々木松次郎のご子息、忠夫氏より寄贈の申し出を受ける。過去に寄贈の経緯があるため、当館への寄贈をご希望された。  《幼きマリア》1935年頃	佐々木松次郎の作品は 9 点収蔵している。 佐々木は、明治三十年（一八九七）浜名郡浜松町元城（現浜松市中区元城町）に生まれ、誕生日にカトリックの洗礼を受ける。 戦前から戦後にかけて、地元の名士たちと深く関りを持った郷土の画家であり、当時の浜松画壇を知るうえで重要な人物と考える。 四十九年の長きにわたって、西遠女子学園の美術教師を務めつつ、日本におけるキリスト教美術はいかにあるべきかを追究し続けた佐々木松次郎について、近藤啓二（キリスト教美術協会会員）は、「わが国風土に根ざした宗教画を確立」したと評している。 静岡県立浜松中学校（現浜松北高）卒業後、岡田三郎助のデッサン塾を経て東京美術学校西洋画科に入学。同校では長原孝太郎・小林万吾・藤島武二らの指導を受ける。一方、在学中帝国劇場背景部に属し、和田英作にも師事。同校を卒業後、大正十二年の関東大震災を機に浜松に帰り、西遠女子学園に勤務。昭和五年、同志と共にカトリック美術協会を結成する（後、昭和四十七年これを発展的に解消し、キリスト教美術協会を結成する）。また、浜松市立図書館や松菱百貨店を会場として、しばしば個展を開催した。

	柳澤紀子 ※郷土に関係のある優れた作品	作家の知人(依頼者から寄贈したいという申し出があった。 《wind》1988 年	柳澤紀子の作品は 21 点収蔵している。 昭和十五年(一九四〇)浜松市に生まれ、浜松市立高校を卒業後、東京藝術大学大学院を修了。 柳澤紀子は人間の原点である「体と精神の関係」などをテーマとして銅版画やミクストメディアなどの作品を精力的に発表している。活動の場は、日本国内にとどまらず海外にも広げており、東京を中心とした国内での個展をはじめ、ポルトガル、アメリカ、イタリア、イスラエル、ルーマニア、ブルガリアなど世界各地の美術館、ギャラリーで個展を開催し、講演やワークショップなども行っている。柳澤氏の表現はビビットな色彩と大胆な主題の単純化に大きな特徴がある。時の移ろいとともに漂う舟、ギリシャ神話を想起させる翼、自然との交歓をあらわす樹木や水などの断片によって構成される作品は、詩的な静けさを漂わせながら現実のはかなさを感じさせ、その東洋的な表現は、日本国内だけでなく海外でも高い評価を得ている。

令和 3 年度の購入作品について

〇令和 3 年度：秋野不矩作品 1 点を購入した。

《暮れる海》１９６０年（寄託作品）

購入金額：５００万円

本作は、四国の南端・室戸岬の夕暮れ時の風景を描いたもので、1960 年開催の第 4 回現代日本美術展に出品された作品である。画業前半期の作であるが、この頃、主に人物画を志向していた秋野にあって希少な風景主題の作品で、創造美術結成後に取り組んでいた造形的な構成による表現が顕著に発揮されている。

秋野の画業前半期の作品は 2 度の画室火災（1973 年、76 年）で大多数が焼失しており、現存するものが極めて少ないため、本作は秋野の画業を回顧するにあたって欠かせない作品である。